

# 強者の戦略

東大日本史のみかた 44 [問題編]

第 44 回となる今回は 2020 年の東大日本史の第 4 問を取り上げてお話をしていきたいと思います。さあ、しっかり問題を考えてみてください。

## 【2020 年度 東京大学 文科前期 第 4 問】

次の(1)・(2)の文章は、軍人が実践すべき道徳を論じた明治時代の史料から、一部を抜き出して現代語訳したものである。これを読んで、下記の設問 A・B に答えなさい。

- (1) 維新以後の世の風潮の一つに「民権家風」があるが、軍人はこれに染まることを避けなくてはならない。軍人は大元帥である天皇を戴き、あくまでも上下の序列を重んじて、命令に服従すべきである。いま政府はかつての幕府に見られた専権圧制の体制を脱し、人民の自治・自由の精神を鼓舞しようとしており、一般人民がそれに呼応するのは当然であるが、軍人は別であるべきだ。

(西周「兵家徳行」第 4 回, 1878 年 5 月。陸軍将校に対する講演の記録)

- (2) 軍人は忠節を尽くすことを本分とすべきである。兵力の消長はそのまま国運の盛衰となることをわきまえ、世論に惑わず、政治に関わらず、ひたすら忠節を守れ。それを守れず汚名を受けることのないようにせよ。

(「軍人勅諭」1882 年 1 月)

### 設 問

A (1)の主張の背景にある、当時の政府の方針と社会の情勢について、3 行以内で述べなさい。

B (2)のような規律を掲げた政府の意図はどのようなものだったか。当時の国内政治の状況に即しながら、3 行以内で述べなさい。